

一度立ち止まって

出雲市立向陽中学校 三年 岩浅咲耶

今年の六月に行われた生徒会主催の人権集会。これが私の考え方を大きく変えるきっかけとなりました。

私は本部役員をしているため、どうしたら全校生徒のみんなに人権について考えてもらえるかなどを話し合っていました。ある日、担当の先生が、「もし、挨拶をしたとき、返してもらえなかったらどう思う？」と私たちに尋ねられました。その時、ふと中学生になってから、登校中に会うおばあさんのことを思い出しました。そのおばあさんに、「おはようございます。」と挨拶した時のことです。おばあさんは私の声に気づき、私のことを見たにも関わらず、挨拶は返ってきませんでした。その時私は、「冷たい人、怖い人、私のことが嫌いだから挨拶を返してもらえないんだ。」と思いました。そんな事が毎回続いたので、いつしか私は、出会っても挨拶をしなくなっていました。このような経験があったので、先生の質問に対して、「冷たい人」という否定的な答えしかでてきませんでした。私たちの答えを聞いた後、先生は、「もし、その人に何か事情があったとしたら、どんなことが考えられる？」と尋ねました。何人かは「聞こえなかった」「相手は返していたけれど、自分が聞こえなかった」この他にも、考えられる事情を次々と出していました。しかし、私は考えても、他に何一つ出てきませんでした。これまで私は、自分のことを、あまり決めつけなどはしないと決めていたため、この事をおして、無意識に思い込み、決めつけをしてしまっていたことに気づき、驚きました。この一件をきっかけに、「もしかしたら」と思い、そのおばあさんのことを父に聞いてみました。返ってきた言葉は意外なものでした。「そのおばあさんはね、人とコミュニケーションをとるのが苦手なんだよ。だから挨拶をしても返してもらえなかったんじゃないかな。」父の話聞いて、私はハッとしました。おばあさんには事情があったのです。勝手に相手を決めつけて、挨拶をやめて、本当に失礼なことをしたなど後悔しました。

無意識の思い込み、決めつけは、時に人間関係の悪化やいじめにも繋がります。また、一番怖いのは、同じ間違いを繰り返すことです。これら無くすために、今回の人権集会では、人権に関するアンケートを実施し、その結果を発表したり、他学年の人と一つのテーマについて、話し合ったりしました。集会をおして、無意識の思い込み、決めつけに多くの人が気づくことができたようでした。

思い込みをすることは誰にでもあるということを知る。もしかして、自分が誤解しているのかもしれないと一度立ち止まってみる。それによって、改善するという行動につなげる。知って、気づいた後、どう改善していくのかが重要なのではないのでしょうか。

私は、挨拶を返してもらえなかったおばあさんが、人とのコミュニケーションが苦手だと知った時、どうすれば改善できるだろうかと考えました。そして、挨拶を返してもらえなくても、出会った時は必ず、気持ちの良い挨拶をしようと心に誓いました。

ある日、信号待ちをしている時におばあさんに会いました。私は、「こんにちは。」と挨拶をしました。するとおばあさんは、小さく頭を下げられたのです。初めて挨拶に応じてくださったところを見て、とても嬉しくなりました。その時、ふと「もしかしたら」と思いました。私は毎朝、おばあさんに挨拶をする時、自転車で追い越しざまに挨拶をしていたので、ちらっと顔を見るくらいでした。だから、返事も聞こえず、頭を下げられるのも見ていませんでした。もしかしたらおばあさんは、毎回、私の挨拶に応じてくださっていたのかもしれないのです。おばあさんがいつも、挨拶を返してくださらないというのは、私が勝手に決めつけていただけなのかもしれません。

私はこれらのことから、常に「自分の考えが本当に正しいのか」と一度立ち止まって考える、ということを心に留めて生活するようになりました。そして、自分の思い込みに気づいたら、すぐに改善する人になりたいと思っています。

無意識に思い込みや決めつけをしてしまうことは、誰にでもあり得ることだと思います。しかし、それを理解して行動できる人が増えていけば、「誰もが過ごしやすい社会」を作ることができると思います。